

～地域の居場所・つながりづくりのヒント～
丁子田シニアクラブ会長 菊池さんの話を聞いて

チームA つながり隊 松チャン さっちー さとくん もんきち ユッキー てらし



愛知県職員として様々な分野の仕事を経験し、とりわけ福祉の分野、障がい者や生活保護、高齢者をはじめ、介護保険の立ち上げにも関わったという菊池利彦さん。社会福祉においては“人とのつながり”の大切さを感じていたといいます。丁子田に住みはじめて34年。現在は民生委員やシニアクラブの会長を務める菊池さんに、地域の居場所づくりと“つながりづくり”のヒントを伺いました。

菊池利彦さん（写真：丁子田集会所でのそば打ち同好会にて）

○働いていたころは隣のオヤジさんと話したことがなかった

—在職中の頃、地域とのつながりはあったのでしょうか。

まったくくないですね（笑）当時、長久手町役場へ行くことは住民票を取りに行くくらいで、余暇も名古屋へ出て酒を飲んだり麻雀をやったり、また小学生も越境して名古屋の極楽の小学校へ通っていたりと長久手に住んでいるという意識ではなかったですね。

また、働いていたころは隣のオヤジさんとあんまり話をする事なんてなかったし、近所付き合っても関心がなかった。きっと、私だけではなくお互いがそうだったんでしょうね。転入して5年経ったころに自治会の役員をやりましたけど、地域のために何かできていたのか考えるとそうは思えない、終わったときにやれやれとは思いましたけどね（笑）

—人口が増えた市が洞地区ですが、コミュニティづくりについて、菊池さんから見てどう思いますか。

当時、長久手に住んでいると言うと、「いいところに住んでますねー」と言われていたんですよ。今も世間



的にはイメージがいいとは言われていますが、やっぱり横のつながりは少ないと感じますね。30年前の私たちと同じかもしれないので今のコミュニティに違和感を感じませんが、自治会に入っていない人たちがいるなど、少しコミュニティを中心とした人とのつながりが足りないとは思いますがね。

—幸せ実感調査、アンケートからも“つながりが大事”という結果が出ています。

全く同感ですね。

○また、新しい“しがらみ”ができるのかと・・・。

—どのようなキッカケで民生委員やシニアクラブの活動をするようになりましたか。

仕事を退職したことでそれまでの“しがらみ”がきれいさっぱりしたという思いがありましたが、地域の活動を始めるとなると「また新しい“しがらみ”ができるのか」という思いもありましたね。—その“しがらみ”というものはいい意味ですか。

地域に入っていくということが簡単ではないなと思ったんです。地域に入っていく前に、農楽校や市民講座、里山クラブなどに参加したんですよ。その中でだんだんと新しいつながりができてきたんです。新しいつながりの中で、シニアクラブのなり手がいなくなってしまって来年閉鎖だ、という話があり、何とか来年以降もやれないかという話が私にきたんですよ。どうせ誰かがやらないといけないなら私が・・・という思いで引き受けましたね。本当は、酒飲んで麻雀やっている方が楽しいんですが（笑）

○やっているときは、不安も多い

—そのようなお話からシニアクラブの会長を引き受けましたが、いざ人集めをするとなると大変だったと思います。人集めに関して工夫したことや大切にされたことはありましたか。

まずは情報を伝えることから始まると思ったんです。自分が情報をしまい込んでしまってはそれで終わってしまう。翌月の予定をプリントして地域に配る。手間はかかるけど、それが大事だと思

うんです。

もう一つは、やっぱりやっていることがみんなのニーズに沿っているか。最近だと健康志向なのでヨガをやっていますが、皆さんの興味があると「次はいつやるの」と聞いてきますね。自分勝手に進めていくと人はどんどん離れていく。皆さんの意見を聞きながら、やるべきことはやっていくという意識だとうまくいきますね。最近は、こちらから誘わなくてもシニアクラブに入りたいと言ってきてくれた方もいるんですよ。

ーやるべきことをやるというのは難しいですね。

そうですね。自身の地域参加の一つとして、そば打ちグループの運営に参加していますが、「みんな来てくれるのかな」とか「楽しんでいる



のかな」とか、とにかく不安も多く、自分が楽しむ余裕はあまりないですね。

○つながりの秘訣は「無理強いをしない」

ーお話を伺っているとニーズに沿った企画を考えるなど、参加しやすい雰囲気づくりをしているように感じますが、意識されているのでしょうか。

まさに、そこだと思っんですよ。「今度これやるからぜひ参加してよ」など“無理強い”はしない。

参加できなくても、「いつでもいいから参加して」や「興味があるものがあったら参加して」と声をかけるように意識しています。



一人を集めよう、集めようと思って誘うと参加する側は構えちゃいますよね。

そうですね。あと、役が回ってくると思うとやりたくなくなっちゃう。そのあたりも無理強いはしないようにしています。

一定年退職した“男性”の居場所がないと言われていますが、そのような人たちの居場所を作るにあたって大切にしている思いはありますか。

私自身も居場所づくりには苦労しましたからね(笑)でも、みんなそれぞれの生活がありますから、地域の活動に今日も出てきて明日も出てきて・・・とやっている则会の運営に無理が出てきてしまうと思うんですよね。今日の参加は少なくてもいい、また次に参加してもらえれば、と自然に参加してもらいたいですね。

○地域のつながりをつくるのに遅いということはない

ーシニアクラブなど地域の活動に参加していてよかったなあと感じることはありますか。

活動しているときはあまり感じることはないですね。自分に余裕がないので(笑)ただ、活動を肯定的に評価してもらとうれしい。たとえ



ばそば打ちをやった時に「そばおいしかったよ!」と言ってもらったり、「今日は楽しかったよ」

と言ってもらったりするとよかったなあと思いますね。あとからじわじわと感じてくるんですかね。

—これからの社会は地域のつながりがないと立ち行かなくなると思います。菊池さんも地域とのつながりが必要だと感じていると思いますが、どのような面で必要だと思いますか。

やはり、退職したときに地域に出ていくとなると在職中に少しでも地域とのつながりがあると楽ですね。でも、地域とつながりをつくるのは退職後でも決して遅くはないと思います。ただ、地域への参加は誘って来てもらうのではなくて、自分から参加するようになるのが理想ではないかなと。



—引き込むというより背中を押すという意識ですかね。一緒にやろうよという。

そうですね。退職したばかりは職場のしがらみから解放され、少し時間が必要かもしれませんが、地域で新しい人間関係を作っていかなければなら

ないときに、誰かがちょっと背中を押す、地域とのかかわりをつくる一歩になればいいと思っていますね。

—最後に、菊池さんにとって“地域の幸せ”とはどういったものでしょうか。

厳密な意味で“地域の幸せ”があると思えないんですね。幸せは個人個人が持つものだと思いますが、自分だけが幸せで周りにはどん底というのはいり得ない。物が充足した世の中で、人は何で幸せを感じるか考えたとき、“人と人との関係”、親子や兄弟、そして地域のつながりが幸せにつながるのではないのでしょうか。

編集後記

愛知県職員として働き、退職後も精力的に活動を行っているという事前情報からまわりの人たちをぐいぐい引っばっていく地域のリーダーをイメージしていましたが、「活動しているときは不安しかない」と話す菊池さんに親近感が湧きました。

インタビューの最後には、声を交わすこともなかった隣のオヤジさんとちょっと一杯飲みに行こうか！という関係になり、奥さん同士も旦那の愚痴を言い合う関係になっているという話を聞き、理想の地域のつながりを垣間見ることができました。

(おいしい手打ちそば！)

